

# ロヒンギヤ 難民緊急支援 成果と課題

UNICEF Bangladesh 代表  
穂積 智夫

unicef   
for every child

© UNICEF/Lister

# ロヒンギャ難民危機の歴史的背景

1977-78

## 第一流出

- ミャンマー政府が“非ミャンマー人”を見つけて出すための**住民登録**開始。ロヒンギャの人々はミャンマーの国民とはみなされなかった。(ナーガミン作戦)
- 1978年5月までに、**20万人以上**のロヒンギャの人々がミャンマーからバングラデシュへと流出。(近現代史初となる大量流出)

1991-92

## 第二流出及び 本国帰還

- **強制労働**や**レイプ**、**宗教的な迫害**が原因で、**25万8777人**のロヒンギャの人々がミャンマーからバングラデシュへと流出。
- 1992年10月に**本国への帰還**が開始。しかし、強制送還が発覚し、UNHCRは支援を同年12月に取り止め。
- **23万6,599人**が本国帰還。

2005

## 本国帰還の“停止”

- バングラデシュに残ったロヒンギャの人々はコックス・バザールに身を寄せ、**3万2,000人**が**難民として登録**され、**6万人**が**仮設キャンプ**に居住。
- さらに**30万～50万人**のロヒンギャの人々がバングラデシュ国内の**さまざまな場所に滞在**していた可能性。

2016.10-

## 新たな流出I

- **ミャンマー・ラカイン州**における新たな**暴力**により、**7万4,000人**がバングラデシュに到着。
- ロヒンギャの人々は**コックス・バザール**に滞在（主に同地区のテクナフとウキヤの2つの郡）。**キャンプ**を設置。

2017.08-

## 新たな流出II

- ラカイン州における**深刻な暴力**によって、推定**74万5,000人**が**3～4カ月**にわたってミャンマーからバングラデシュへ流出。

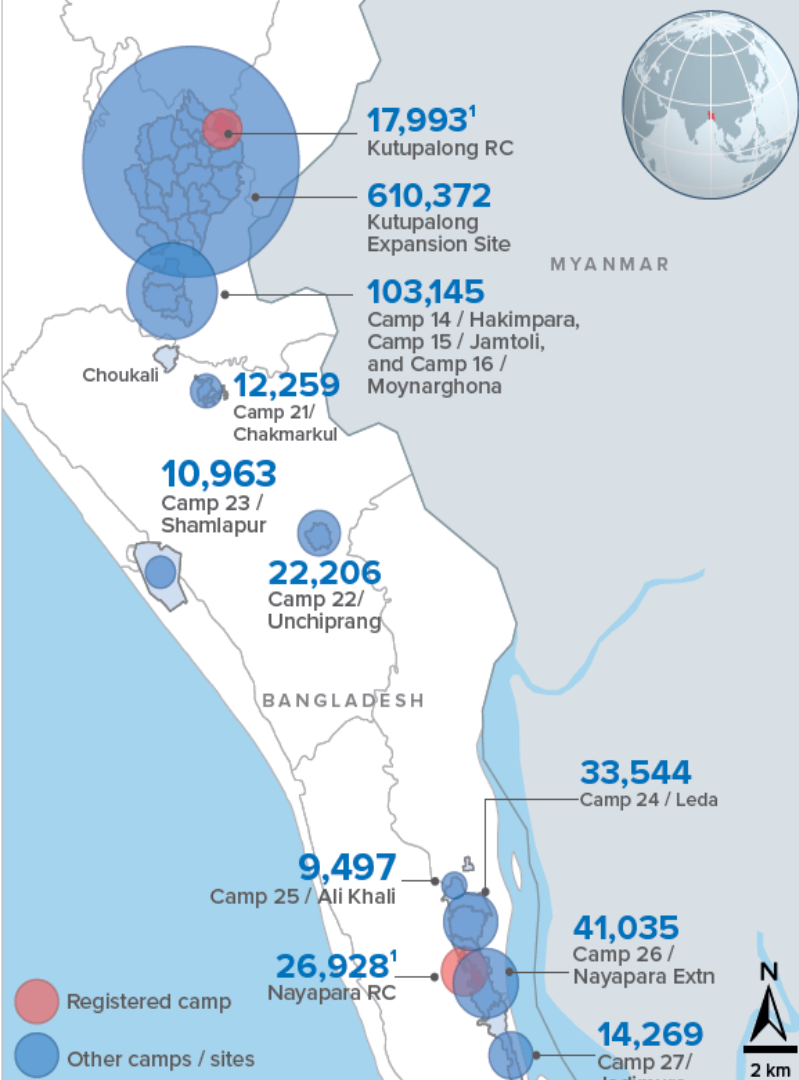


# 背景

2017年8月25日以降、**74万5,000人以上**のロヒンギャ難民がコックス・バザールに到着。そのうちの**55%**である**41万人**が**子ども**。

これまで計**91万1,000人以上**のロヒンギャ難民が Bangladesh に身を寄せる。

コックス・バザールの受け入れコミュニティを含む約**120万人**が影響を受ける。そのうちの**57%**である**68万3,000人**が**子ども**。



# 背景

かつて森林地帯だった場所は、**世界最大の難民キャンプ地帯**となった。

**34のキャンプ**：難民の家族は薄い竹と防水シートで作られた家で暮らしている。

**受け入れコミュニティへの影響**：道路の渋滞 / 市場価格の上昇 / 労働賃金の低下 / 社会サービスのひっ迫 → 難民と受け入れコミュニティとの間で緊張の高まり。

**サイクロン**や**モンスーン**への脆弱性—特にキャンプは脆弱。

# 2019年 UNICEFの支援 - 概要

**「サバイバル」だけではなく** – 命を守るための支援に加え、UNICEFは**“持続的な解決策”**の鍵となるキャンプ内での体系的な教育を提供。

**関係地域全体へのアプローチ** – 難民だけでなく、コックス・バザールにおいて社会経済開発指標が国平均を下回る人々に対しても支援を実施。

**人道支援と開発の連携** – 短期的人道支援と長期的開発支援のリンク。





## 2019年 UNICEF支援成果例

56万5,000人に**安全な水**や**トイレ**を提供。

4歳～14歳の子ども**21万3,000人**が公式あるいは非公式の**教育**を受けた。

**5万7,000人**の子どもが**心理社会的支援**を受けた。

10代の若者と女性**5,000人**が**ジェンダーに基づく暴力(GBV)**防止及び支援のサービスを受けた。



## 2019年 UNICEF支援成果例

7万4,000人の子ども（うち、キャンプから2万4,000人、受け入れコミュニティから5万人）が必要な**すべての予防接種**を受けた。

1万3,000人の10代の若者が**職業訓練プログラム**に参加。

5歳未満の子ども**1万1,600人**が**重度の急性栄養不良(SAM)**の治療ケアを受けた。

**67万5,000人**が重要な社会・保護サービスに関する情報を提供され、関係のサービスに照会された。



# 課題

難民の人々は完全に**援助に頼っている**状態。  
雇用の機会がない。

**持続的な解決策**への道筋が不透明、**政治的にセンシティブ**。

**限られた土地と過密**。

大半の15歳～24歳の若者（**81%**）が**教育**  
**あるいは職業訓練のいずれにも従事して**  
**ない**。





# 課題

**モンスーン**や**サイクロン**によって複雑化する、不十分な**インフラ**、**道路へのアクセス**、**物流**。

特にモンスーン期における**病気の発生**の危険性。

支援へのアクセスが困難な**10代の女の子**や**障がいのある子どもたち**への支援。

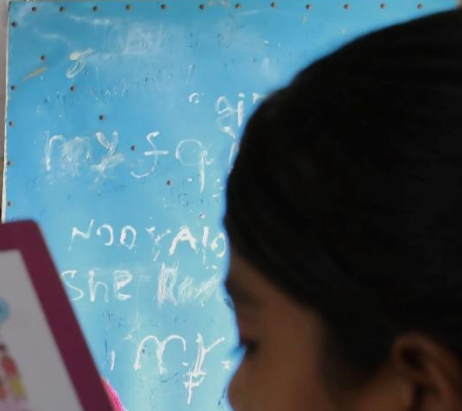
児童労働、早期結婚、人身売買といった**負の対応メカニズム**の増加。

分野	2019年 要求資金	2019年 資金のギャップ (8月末時点)	% ギャップ	受益者ターゲット	
				難民	受け入れ コミュニティ
栄養	\$16,670,000	\$7,988,396	48%	165,584	43,145
保健	\$19,873,645	\$11,253,490	57%	29,057	79,295
水と衛生	\$36,900,000	\$18,515,723	50%	250,000	300,000
子どもの保護と ジェンダーに基づく暴力	\$17,785,658	\$1,454,873	8%	131,029	29,706
教育	\$47,200,000	\$22,919,390	49%	249,029	42,000
開発のためのコミュニケーション	\$4,220,000	\$1,573,725	37%	725,000	100,000
緊急時への準備	\$9,600,000	\$4,062,176	42%	-	-
<b>合計</b>	<b>\$152,249,303</b>	<b>\$67,767,772</b>	<b>45%</b>	<b>-</b>	<b>-</b>

UNICEFは他の支援者たちと協力して、この危機の影響を受けるすべての子どもの権利を守るため、**難民キャンプ**と**受け入れコミュニティ**の双方で暮らす人たちに支援が届くように活動を行っている。

# 日本とUNICEFの連携







unicef   
for every child

# Thank You

